

令和元年12月2日

石巻市議会議長 木村 忠良 殿

会 派 名 公明会

代表者氏名 会長 渡辺 拓朗

調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

記

- 1 調査者氏名 渡辺拓朗、櫻田誠子、鈴木良広

- 2 調査期間 令和元年11月19日から
令和元年11月22日まで 4日間

- 3 調査地
及び調査内容 (1) 石川県能美市
・移住・定住促進の取り組みについて

(2) 富山県
・富山県広域消防防災センターについて

(3) 福井県あわら市
・学力向上の取り組みについて

4 目 的

(1) 石川県能美市

- ・移住・定住促進の取り組みについて

少子高齢社会の中で、人口減少が地方自治体の大きな課題となっている。石巻市は震災の影響も合い重なり顕著である。特に社会動態の人口減少はこの二年間連続でマイナス 580 人を越え想定より 300 人ほど超過しており危機感をさらにいだかなければならない経過をたどっている。

このような状況下、能美市は平成の合併で平成 17 年根上町、寺井町、辰口町が合併し能美市が市制施行した。合併直後は石巻市と同様に人口減少に至ったが、企業誘致等の努力により社会の動向に負けず人口が上昇傾向に転じた。地方にとってこのような稀な人口動態に寄与した事業等を探ることを目的とする。

(2) 富山県

- ・富山県広域消防防災センターについて

富山県広域消防防災センターは、県民の安全・安心な暮らしの確保を目指し、多様化、大規模化している火災、事故、災害等に的確に対応できる消防職員及び消防団員の育成を図っています。

また、災害時には被災地への支援拠点となるとともに、平常時には県民の防災知識の普及啓発等を行っています。

さらに、災害を四季でとらえた体験型学習施設「四季防災館」が併設されており、様々な体験学習が行えます。

富山県広域消防防災センターの取り組みを学ぶことにより、本市における防災センターの活用推進をし、防災意識の向上を推進するために視察しました。

(3) 福井県あわら市

- ・学力向上の取り組みについて

あわら市は、平成 31 年度の全国学力・学習状況調査において小学校及び中学校の平均正答率が全教科で全国平均を上回っており学力水準が高い。

学校教育は、児童生徒に「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のそれぞれをバランスよく身につけさせることにより、変化の激しいこれからの社会を生き抜くために必要な「総合的な学力」を育むことを目的に各種施策の取り組みを続けている。

また、社会教育及び社会体育教育分野では、市民一人ひとりが生涯学習やスポーツを通して生きがいを見出し、自己実現を図るとともに、市民同士のつながりを深めることを目指している。

教育振興基本計画において、「ふるさとあわらに誇りと愛着を持ち、生きる力を育む教育」を基本理念とし、8項目の基本方針を掲げて取り組みを進めている。

本市では、平成31年度の全国学力・学習状況調査で正答率が実施した全ての教科で全国及び宮城県値を下回っており、結果の分析及び課題解決を図る必要があることから、あわら市の取り組みを学び、本市の事業推進の参考とする。

5 調査概要

(1) 石川県能美市

- ・移住・定住促進の取り組みについて

能美市はまず、国立社会保障・人口問題研究所や島根県中山間地域研究センターの能美市の人口減少データを基にそのシミュレーションに負けない人口目標を立てその目標への挑戦を次のように定義付ける。

①人口動態の特徴を分析する。

②移住定住の為の予算方針

㊦子育て住環境の充実。㊧産業振興企業誘致・人手不足対策。㊨交流人口の拡大。

㊩教育力の向上。㊪安全安心の街づくり。

この5項目をそれぞれ能美市の魅力の発信（シティプロモーション）と行政改革を常に意識し**具体の事業を立案**。

このような理念から三つの具体の移住定住事業を次のように組み立てる。

1 市民向け事業

- ・故郷の魅力を伝える動画の作成。
- ・故郷学び塾の開催。
- ・定住促進補助金制度

2 市外向け事業

- ・子育て世代向け情報誌への掲載。
- ・移住冊子の作成
- ・新聞広告（地方新聞にイベント情報掲載。年12回）
- ・転入者への商品券贈呈。

3 県外向け事業

- ・のみ移住サポートセンターの設置。
- ・東京での移住体験イベントの開催。
- ・都市圏での移住相談会。
- ・ちよい住み体験。

- ・ 県外加算制度の定住促進補助金制度。
- ・ Nチケットの配布。(移住定住協賛企業の割引チケット)

以上の事業の展開により市外からの移住者の推移は次に示すように大きな実績として表れている。石巻市の約10倍以上である。

平成26年度 85世帯 307人

平成27年度 96世帯 299人

平成28年度 84世帯 266人

平成29年度 92世帯 275人

平成30年度 102世帯 287人

(2) 富山県

- ・ 富山県広域消防防災センターについて

防災拠点施設整備の必要性

平成7年1月阪神・淡路大震災をはじめ、平成16年の新潟・福井県での豪雨災害や新潟県中越地震の状況から、大規模災害時に迅速・円滑な災害対応活動を実施するための活動拠点を確保する事が重要とされていた。

富山県の地域防災計画には、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、「県は、広域的な災害時において、災害対策本部のバックアップ機能やヘリポート等を備えた、応援の後方支援基地として、また、平常時においては、地域住民に対する、防災に関する教育、訓練実施との場ともなる広域拠点施設を整備する」とされていたが、厳しい財政状況などから、未整備であった。しかしながら、近年の全国での災害の状況から、比較的災害の少ない県と評価されている富山県においても、いつ大規模な災害が発生してもおかしくはなく、「早期の施設整備が望まれていたことから、平成19年1月、富山県防災拠点施設の在り方検討会からの報告を受け平成20年9月に防災拠点施設整備基本計画策定し、平成24年4月に体験型学習施設 四季防災館が、富山県広域消防防災センター内にオープンしました。

四季防災館では災害を四季という自然のサイクルの中でとらえ、克服に向けた先人たちの努力を学ぶ事が出来る、体験型学習施設です。

これまででも、他自治体の防災センターにも、視察に行っていました。これ程の体験型学習施設は他にはありませんでした。

防災関係者。一般県民を対象とするもの

「全国初の研修」

春 雪崩体験 雪崩現象を模擬的に再現する装置で、雪崩の発生の様子を紹介
強風体験 富山県内の局地風の特徴等を解説し、災害防止のための心得の紹介

夏 流水体験 15 cm。30 cm。45 cmの推進の中を歩く体験で推進の違いによって歩きづらさを実感できます

風災害体験 室内で豪雨と暴風を模擬体験で、両方の同時体験も可能

秋 初期消火体験 映像スクリーンの火災に向けて放水。正しく放水を続けると映像が変化して消火が成功します。

冬 「寄り回り波」 富山湾特有の高波が引き起こす災害の恐ろしさを、大型映像シスを用いて迫力ある映像で展開しています。

富山と雪—過去・現在・未来 雪外の種類、特徴雪下ろし時の事故対策、利雪の取り組みについて紹介

その他

高齢者等助け合い体験 ・災害時に要援護者となりやすい、高齢者、障がい者等に対する支援活動について体験を通じて学習できます。

地震体験 ・地震の揺れを3次元に動く震動装置でリアルに体験できます

・震度や加速度等のデータ及び自身の波形が表示され、これまで発生した国内の地震の揺れ方を体験します。

119番通報体験 ・事故。災害等の119番通報を、映像を見ながら体験できます。

・携帯電話。固定電話。公衆電話による通報体験が可能です。

消防職団員を対象とするもの

・日本一高い主訓練塔を利用した消火・救助訓練・潜水専用プールを活用した水難救助訓練

・全国トップレベルにある山岳救助技術を活用下実践的な救助訓練。

(3) 福井県あわら市

- ・学力向上の取り組みについて

あわら市が、全国学力・学習状況調査において小学校および中学校の平均正答率が全国平均を上回っており、学力水準が高いことからその取り組みを調査。

○教科に関する調査（対象：小学校6年生の児童および中学校3年生の生徒）

小学校⇒国語・算数 中学校⇒国語・数学・英語

■教科に関するあわら市の調査結果から 全国・県平均正答率との比較（Pはポイント）
5P以上高い⇒◎ 0～5P高い⇒○ 3P以上低い⇒▼ 0～3P低い⇒▽

小6	国との比較	県との比較	中3	国との比較	県との比較
国語	◎	◎	国語	○	▽
算数	◎	◎	数学	○	▼
			英語	○	○

《小学校 概要》

小学校の平均正答率は、全ての教科において全国や県の平均を上回っている。

特に国語においては、「書くこと」「読むこと」「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のすべての領域において高い正答率だった。

《小学校 教科別の成果と課題》

小学校国語

「良好」な内容

- 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むこと
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話しの展開に沿って質問をすること

「課題」となる内容

- 目的や意図に応じて、複数の情報を取り上げて、理由を明確にして自分の考えを書くこと
- 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと

小学校算数

「良好」な内容

- 台形について理解すること

「課題」となる内容

- 計算の順序についてのきまりを理解して計算すること
- 数や式を多面的に考察し、数学的な表現を使って説明すること

《中学校 概要》

国語や数学の平均正答率は全国を上回っている。

今年度、初めて導入された英語については、下記の表に示すように、「外国語理解の能力」や、「言語や文化についての知識・理解」の平均正答率は、全国や県よりも高くなっている。

中学校英語 評価の観点	平均正答率 (%)		
	あわら市	福井県 (公立)	全国 (公立)
外国語理解の能力	50.5	48.3	44.7
言語や文化についての知識・理解	67.2	67.0	64.7

《中学校 教科別の成果と課題》

中学校国語

「良好」な内容

- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方・考え方を広げること
- 話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること
- 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと

「課題」となる内容

- 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと
- 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりすること
- 話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること

中学校数学

「良好」な内容

- 平行移動の意味を理解し、移動距離を求めること
- 目的に応じて式を変形し、事柄が成り立つ理由を説明すること

「課題」となる内容

- 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること
- グラフ上のY座標の差の意味を事象に即して解釈すること
- 式やグラフを用いて、問題解決の方法を数学的に説明すること

中学校英語

「聞くこと」領域

「良好」な内容

- 短い英文を聞いて、情報を正確に聞き取ること

「課題」となる内容

- 聞いて把握した内容について、適切に応じること

「読むこと」領域

「良好」な内容

- 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ること

「課題」となる内容

- まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解すること
- 書かれた内容に対して自分の考えを示すことが出来るよう、話の内容や書き手の意見などを捉えること

「書くこと」領域

「良好」な内容

- 文の中で適切に接続詞「if」を用いること

「課題」となる内容

- 一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くこと

「知」「徳」「体」のバランスの取れた総合的な学力の育成

- ① 大きな影響力を持つのは教師の指導力にあると考える。なぜ学ぶのかを理解させ、生涯にわたり自ら学び続ける子を育てたい。その為、「キャリア教育」の充実や「総合的な学力」をつけることが大事
- ② 中高連携を効果的に生かし、高校教員が中学校で授業を行ったり、長期休業中に中学生が高校で補修授業を受けたりするなど中学校から先を見据えた進路指導も行っている
- ③ 豊かな体験事業
地域との連携 あわらいいとこ探し～中学生によるあわら市観光大使

「2学期制への移行」について

小学校における2学期制のメリット・デメリットについて

【メリット】

・授業時数が平均 14.8 時間増えている。

→児童が主体となる探求型の授業（発展学習）が展開される。

→つまずきのある子ども達への振り返り（補修学習）の時間に使われる。

→長期休業の過ごし方に変化（学校評価より）

「児童は休業中に計画的に課題に取り組んでいる。教師も個別学習を行ったりして意図的に長期休業に臨んでいる」

「学期の途中であることを意識しながら、教員は個別学習を行ったり、家庭訪問時にアドバイスできたりしている」

【デメリット】

→移行当初は、通知表が1回少なくなる（前期・後期 計2回）ことから、保護者との情報共有に不安を感じる保護者や教員の声もあった。

このことについては、通知表はなくても保護者懇談会は実施し、その時には通知表に代わる子供の学習や生活の情報をもとに懇談を実施している。

《中学校の授業における「タテ持ち」「ヨコ持ち」》

数学の担当クラス（各学年3クラス）の例

ヨコ持ち（一般的）：1人の先生は1つの学年のみ受け持つ

A先生	1年1組	1年2組	1年3組
B先生	2年1組	2年2組	2年3組
C先生	3年1組	3年2組	3年3組

タテ持ち（福井県）：1人の先生が全ての学年を受け持つ

A先生	B先生	C先生
1年1組	1年2組	1年3組
2年1組	2年2組	2年3組
3年1組	3年2組	3年3組

○「**タテ持ち**」にすると・・・

先生は、1つの学年の教材研究だけでなく、**3つの学年の教材研究**が必要となる。

先生の負担が大きくなるかも？

しかし・・・

○3人で持つことで**授業のアイデアが3倍に！**

子どもたちにより質の高い授業を提供できる。

○**3年間の学びの見通し**を持って指導できる。

○若い教員にとって先輩教員と同じ授業をするため、教材研究や授業の手法を自然に学ぶためスキルアップを図れる。

○他学年の生徒と触れ合う機会も増え、学校全体で生徒を育成するという意識が高まる。

《小中学校の英語教育》 県立高入試、英検の取得級で加点

中学校3年生 **3級以上の取得率 56.8%**

英検準1級以上等を達成した高校教員の割合 86.6%

英検準1級以上党を達成した中学教員の割合 56.3% (1位)

《各学校での取り組み》

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. ラジオで「英語」に触れる時間 | 2. ALT と協働して英語力 UP! |
| 3. 授業研究で高め合う 児童+教員+ALT | 4. 絵本の読み聞かせ |
| 5. 英語の環境づくり | 6. 校内放送で英語 |

「生きた英語」の習得

コミュニケーションツールとして「使える英語」の習得

(小学校)・英語授業力研究の推進 ・市費 ALT の支援 (2人) ・英語教室の開催

(中学校)・国際交流事業

アメリカ (ユージン学園交流) 中国 (浙江省紹興市分離学院交流)

6 所感及び調査による石巻市への政策提言等

(1) 石川県能美市

・移住・定住促進の取り組みについて

動かしようのない少子高齢化の流れに伴う人口減少を人口増の方向に向けた要因は調査概要で取り上げた多くの事業の相乗効果によるものだが、その中でも一番の要因はと率直に能美市の担当職員に尋ねたところ、やはり隣接する小松空港の立地を背景に大企業の誘致によるものとの回答が帰ってきました。しかしながらその大企業も誘致への決断は働き手不足の時代において労働者の確保ができる環境下にあるか無いかであり能美市の移住者に対しての手厚い支援等に魅力を感じ決断したに違いない。

この2つの大きな要因が同時にかみ合うかが移住者増や人口減少に歯止めをかける要因であることを改めて強く感じた。働き手不足の時代に入る前の企業誘致は物流や進出企業への支援策などに重点が置かれたが今日では働き手の確保がなされるか否かが絶対条件となることを忘れてはならない。

また、能美市では新卒者の転出は親元を離れての貴重な人生経験を積む時期でもあるから一定程度やむなしとし、むしろUターンしてくれるよう、ふるさと愛の醸成こそ重要と考え子供たち向けに故郷の魅力を伝える動画を作成しホームページはもと

より立志式や成人式、庁舎ロビーで上映している。さらに、ふるさと学び塾の開催等で教育の場を移住定住の為に重要視していることを強く提言したい。

最後に移住定住は総合的事業の相乗効果でもあるが、優良企業の誘致が突破口を開くカギとなる。それらの企業の目に留まる環境づくりが重要である。石巻市においてその一つが松島基地の民間機乗り入れはそれら企業の目に留まる条件と改めてこの視察を通し確信した。この機運の醸成に今後も努力したい。

(2) 富山県

- ・富山県広域消防防災センターについて

【所感】

富山県の防災センターではありますが、四季防災館内を視察し、四季を通じての起こり得る災害を実感する体験が必要だと感じました。石巻市では、東日本大震災を経験し、津波の怖さや、威力を実感しました。しかしながら、災害は地震津波ばかりではなく、10月に発生した台風19号では、石巻市におきましても、床上浸水や、土砂災害等大きな被害がありました。全国的に温暖化の影響と言われる、相次ぐ自然災害はこれまで体験したことがないような、暴風や、降雨量、堤防決壊などで、多くの人命や、家屋の被害がありました。

今後は、地震津波のみならず、起こり得る自然災害に対し、防災センターを拠点とし、市民の意識啓発を含めての研修や、なお一層の防災教育の充実に努めなければならないと思いました。

【市への政策提言等】

防災センターは、災害時の重要な拠点であります。富山県の四季防災館のような、体験施設でないのが、非常に残念であります。震災を風化させないために、しっかりと後世に震災を伝えていかなければなりません。また、異常気象による災害もこれまで経験がしたことがないレベルで迫っています。

東日本大震災から、8年9か月を迎える今、研修や情報発信を防災センターがなお一層、担い、防災、減災に全力で努めて頂きたいと思います。

さらには、防災士協議会が立ち上がり、市民レベルでの防災力の向上を図っていますが、これから、少子高齢化が進む中で自助、共助の推進のためにも、防災リーダーの人材育成を強力に推進すべきと考えます。主な、使い方として、研修に限られるようですが、市民に防災センターの認識をして頂くためにも、更なる、防災センターの有効利用を推進して頂きたい。

(3) 福井県あわら市

- ・学力向上の取り組みについて

【所感】

児童生徒の学力や学習状況を細かく分析し、教育施策の成果と課題の検証・改善を図り、学校における教育指導の在り方を県全体で学び、取り組んでいる姿勢が伺えた。

児童生徒の学力向上を図るには、学校と家庭(保護者)、地域の連携が不可欠である。

3者が細やかな連携を図る中で、未来の大切な子供たちを育てようとの共通した思いが感じられた。また、知識の習得を中心とした基礎的な学力だけではなく、思考力、判断力、表現力、自己決定力、社会貢献力、道徳的豊かな心情等を含めた「生きる力」を支える学力を探求しているところや、学校間での連携が図られているところなどが総合的な学力向上につながっているものと思われた。

【市への政策提言等】

本市と比べ、人口規模や家族構成(3世代家族が比較的多い)などの違いがあるの
で同様の取り組みが出来るのかは一概に言えないものの、あわら市の取り組みは大変
参考になるものである。児童生徒へのアンケート調査から見ると、基本的な生活習慣
はもとより計画的な学習習慣、規範意識、自尊感情、社会性などが全国に比べ高い数
値となっており、学力の他にも心と体のバランスを身に付ける総合学習がきちんと行
われている。また、2学期制への移行などにより様々なメリットが生まれているのも
参考に、本市としても今後の教育方針を協議することも必要ではないだろうか?県全
体として更なる連携を図りながら一体感を持った取組で「ふるさとを誇りに思う未来
の人材育成」が図られることを期待する。

7 調査経費 307,511円

8 添付書類 別添資料のとおり

お問い合わせ

石巻市議会事務局 議事グループ

〒986-8501 宮城県石巻市穀町14番1号

Tel : 0225-95-5080 (議会直通)

Fax : 0225-96-2274

Mail: assesc@city.ishinomaki.lg.jp